

中学部保護者の皆様

特別講師 今井正、森口宗紀

## 懇談内容（抜粋）

次のような質問内容について懇談しました。

Q1：「数学が苦手だという意識が強く、特に文章題となると言葉の壁もあり困っています。

どのように学習すればよいですか？」

A1：まず基本の計算ができることが大切です。基本の計算は時間を意識しながら取り組むことで脳が活性化しますし、「できた」という成功体験の積み重ねが「考えてみよう」という意欲につながります。また、1問でわからなくても2問、3問やれば理解できることも多いので、文章題などは10分考えてわからなければ答えを見てでも、まず理解することです。そして類題に取り組み、自身で解決できることを確認することが大切です。

Q2：「日本の入試問題を制限時間で解くためにはどのように学習すればよいですか？」

A2：受験する学校がはっきりしているのであれば、その学校の過去の入試問題を数年分解いてみることは有効です。問題傾向をつかむことで、対策もたてやすくなります。

また、日ごろの学習でも大切なこととして時間を制限して学習に取り組むことです。

集中力の向上にもつながりますし、入試でも時間的な余裕を持つこと訓練にもなります。

Q3：「演習する問題が不足しているように思うのですが、どうすればよいですか？」

A3：演習をするに越したことはないのですが、問題集を手に入れられるなりWEB上でもフリーの問題がアップしています。また、教科書会社（たとえば啓林館、東京書籍、数研出版など）のホームページ上でも、参考になる資料を見られる可能性はあります。各都道府県の高校入試等を検索することで過去の問題を手に入れられる場合もあります。ただ、様々な勉強に取り組む必要がある中で、追い込みすぎることがないようにすることにも留意するべきだと思います。

Q4：「入試のことで不安なことが多いのですが、何かアドバイスはありますか？」

A4：子ども自身も不安を抱えていますし、そこに思春期が重なる時期です。子どもも親もお互いがびりびりするような関係はマイナスにしかありません。大人として保護者が大きく構えてあげなければならない場面もあります。どうしてもできないことに目が行きがちですが、できることに着目することで、子ども自身のやる気を引き出すことが何よりです。

日本でも帰国子女に対する入試制度が変わってきています。日本の高校入試の要項等はホームページ上から入手できることも多くなっていますし、問い合わせするなど、最新の情報を得ることが大切です。